

◎長野県の下水道の歴史

長野県の下水道事業は、昭和22年に発生した飯田市大火の火災復興都市計画事業として、昭和24年度に着手したのが始まりです。依頼、60年余りを経過し、平成22年度末で77市町村のうち64市町村が公共下水道に、59市町村が農業集落排水に着手しています。

～長野県の下水道事業のあゆみ～

凡例 着色部は犀川安曇野流域下水道に関する事項

年度	県内の下水道に関する出来事	国内の下水道に関する主な出来事
明治17年 大正11年 昭和24年度 昭和33年度 昭和35年度 昭和45年度 昭和46年度 昭和54年度 昭和60年度 平成2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市で県内初の下水道事業に着手 ・野沢温泉村が全国の村で初めて下水道事業に着手。 ・諏訪湖流域下水道事業が着手。 ・諏訪湖流域下水道供用開始。 ・千曲川流域下水道(下流処理区)事業が着手。 ・「下水道等整備構想エリアマップ」が策定される。 ・千曲川流域下水道(上流処理区)事業が着手。 ・千曲川流域下水道(下流処理区)供用開始。 ・財団法人長野県下水道公社が設立される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都神田下水が日本で最初につくられる。(1884年) ・日本発の終末処理場として東京都三河島処理場ができる。(1922年) ・旧下水道法の抜本的改正が行われる。 ・水質汚濁防止法が成立する。下水道法が改正される。 ・環境庁が発足。
平成3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・犀川安曇野流域下水道の事業着手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国下水道普及率が50%突破。
平成4年度 平成7年度 平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「新下水道等整備構想エリアマップ」が策定される。 ・千曲川流域下水道(上流処理区)の一部供用開始。 	
平成9年度	<ul style="list-style-type: none"> ・12月1日 犀川安曇野流域下水道の一部(豊科町・穂高町)供用開始。 	
平成10年度	<ul style="list-style-type: none"> ・5月1日 犀川安曇野流域下水道の一部(堀金村)供用開始。 ・長野県下水道事業50周年を迎える。 	
平成11年度	<ul style="list-style-type: none"> ・10月1日 犀川安曇野流域下水道の一部(梓川村・三郷村)供用開始。 ・有明、穂高中継ポンプ場着手。 	
平成13年度	<ul style="list-style-type: none"> ・有明、穂高中継ポンプ場完成。 ・犀川安曇野流域下水道の下水道普及率が50%を超える。 	
平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・計画全幹線着手。 	
平成16年度 平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県の下水道所管が土木部から生活環境部生活排水対策室に移る。 ・梓川村が松本市と合併。豊科町、穂高町、明科町、三郷村、堀金村が合併。 ・安曇野市誕生。犀川安曇野流域下水道は松本市、安曇野市が処理区に。 ・「新下水道等整備構想エリアマップ」が策定される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道法が改正される。
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> ・穂高第3幹線が供用となり、流域下水道全幹線が供用となる。 	
平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県「水循環・資源循環のみち2010」構想が策定される。 ・めぐりん誕生 	
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県「水循環・資源循環のみち2015」構想が策定される。 	

持続可能な生活排水対策を推進する公式キャラクター「めぐりん」です。

